

くらし

デジタルとアナログ④

錦織監督

映画の現場から



●●●6

最近ブルーレイデッキをお持ちの方も多くなってきたと思うが、まだDVDデッキでビデオをご覧になっている方も多いのではないかと思う。もしかしたらまだVHSのデッキで録画したり、見たりしていらっしゃる方もあるかもしれない。

ここ何回かにわたり、デジタル画像はフィルム画像の足元にも及ばないということが、日本では逆に思われている現状から、一度思い込んだ既成概念ほど怖いものはないという事例をあげてきた。

実はDVDよりもS-VHSテープの画像がクリアだということをこ



技術も知恵あってこそ

存じだろうか。パソコンの普及によって取り回しの良さでDVDに軍配があり、S-VHSは過去のモノとなった。デジタル技術を否定しているわけではない。多くの人がそう思っているからといって必ずしも事実でないこともあるということだ。

アーカイブスという考えがなかった何十年も前から現存する貴重なフィルムが、デジタル処理されて現代によみがえっている。まるで当時のままのような色の再現や傷のない映像でみることができるようだ。いわゆるデジタルリマスター版といわれるフィルムだ。デジタル技術が現代の映像制作になくてはならないモノになっているのも間違いない。

都会が進んでいて田舎は遅れている、という概念を持ってふる里を離れた私が今、真逆の概念を映画で発信している。そして、その映画に全国の人たちが共感を始めてくれている。

デジタルとアナログをテーマに4週にわたり書いてきたが、デジタル技術のように便利になった先進技術も、最後はそれを使う人間の知恵があってこそなんだと痛感する。遺(のこ)されている先人の知恵と現代の先端技術の融合が、今まで以上に求められていくのだと思う。わがふる里はそのヒントに満ちている。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載

伊野灘駅より宍道湖を望む(映画「RAILWAYS」49歳で電車の運転士になった男の物語)の一場面から)